

官民連携新技術研究開発事業 新技術概要書

本概要書作成年月

2013/1/15

1. 新技術名	ダム の 地形・地質三次元解析支援システムの開発			
2. 開発会社	ダム三次元研究会			
3. 資料請求先	会社名	株式会社 ジー・アンド・エス		
	住所	東京都渋谷区千駄ヶ谷3-40-5		
	担当課		担当者	福原
	電話	03-3479-8290	FAX	03-3479-8929
	ホームページ	http://www.gands-web.co.jp		
4. 工種区分	大分類		小分類	
	17:水管理／情報処理		1701:水管理 1702:情報処理	
5. 新技術の概要	ダム建設のための地質地形調査を三次元形式で表示解析できる形式でパソコン上に格納する。調査結果は毎年蓄積し、時間経過とともに解析の精度向上が図れ、かつダム建設の地質地形調査費用の軽減を目的とするシステムを作成した。			
6. 適用範囲(留意点)	ダム建設のための地質地形調査は通常、計画段階から実施され、俊を追うごとに対象とする地質情報が増大して行き、その解析にかかる費用も年々増してゆく。また、これらはすべて紙面による膨大な資料となって翌年に引き継がれる。これらの作業を効率的にすすめるためにパソコンの利用を求める声が多くあった。これに対応するために、ダム建設にあたっての現地盤の状態、地下水の状態等に関する事前調査のデータ整理及び三次元的解析作業をパソコン上で行うためのソフトウェアを作成した。			

7. 従来技術との比較		新技術	比較する従来技術 (当初の工法・標準案)	比較の根拠
概要図		本システムにより地表面や地中の地質構成を立体的に表示し、実際に地層が存在するように視点を変えて見ることができる。これによりじばんや地質上の問題点を明確に表現できるので、検討時間の短縮やコストの縮減ができる。	ダム地形地質調査結果は多くの図面などにより提供され、専門家の頭の中で立体的に組み立てられ検討されていた。地盤や地質は立体的な構成を持っているため問題点を表現するために多大な労力とコストがかかっていた。	—
工法名		ダム三次元	なし	従来にない新技術
経済性(直接工事費)		従来の地質地質調査情報の再活用		
工程		情報処理規模による		
品質				
安全性				
施工性				
周辺環境への影響				
8. 特許		なし		
9. 実用新案		なし		
10. 実績	農水省			
	その他	H13～H15: 沖縄総合事務局／土地改良総合事務所にて伊江島、与那国島の地下ダム調査にて活用した。		
11. 備考				